

産声上げた純国産ツイード

北の大地が育むぬくもり



ふわふわの原毛が豊かな質感の生地へと変貌を遂げる。今回はベージュ系とグレー系、2種類のヘリンボーン柄を作成した



愛知上野原市の牧場、まこりん村の「ポールドーセット」毛刈りされたスチッチリした愛知・中外国産提供
「同県愛知県一宮市にある工場では、糸の影らみ感を生かすために繊細な糸供給を行っている
（同じ今期のツイードで、コンセプトテイラーが仕立てたジャケット10万円とベスト・中外国産提供

ツイードという生地は、土地に根差した野趣を残しながらも、どこか高貴なロマンチズムを漂わせる。第1次世界大戦前後の英国貴族の華やかな生活を描いたドラマ「ダウントン・アビー」では、貴族が狩猟や釣りの際に着る服として、温気に強く保温性も高いツイードが存在感を放っていた。

コットランド南東部のツイード川流域で生産されていた。スコットランドでは同じ地域で働き生活する人たちを特定する織柄（エステートツイード）の生産も盛んだ。チャールズ英皇太子がこの織柄を率先して保護していることもあり、ツイード文化は海外のもの、と思

いが誕生した。羊毛や糸を輸入して、生産工程の一部を日本でおこなうという意味での日本産ならば、これまでも存在した。だが、尾州の毛織物の老舗、中外国産愛知（一宮市）が世に出した「北海道ツイード」は、北海道の産毛で飼育され毛刈りされた羊の毛を使うので、原料から国産である。帯広市で洗毛し、大阪府

泉大津市で紡績し、愛知県一宮市で織り上げた。すべての工程を日本国内でおこなった初のツイードとなる。「北海道の羊はサフォーク種を中心にポールドーセット種などさまざまですが、ほとんど食肉生産のみに利用され、毛の9割は廃棄されています。その話すのは中外国産社長の伊藤核太郎さんだ。「ポールドーセット種はコシハ

リの強い羊毛を持ち、ツイード向きの羊。その貴重な羊毛をなんとか生かせないかと思ったのです」と純国産ツイードを手掛けた理由を説明する。
なぜ「これまで羊毛が廃棄されてきたのか。毛刈り後の工程と物流に莫大な経費がかかるからである。北海道の零細な牧羊業では、とてもそこまでは手が回らないというのが実情で、泣く泣く捨てられてきたのです」と伊藤さんは語る。ちなみに北海道で飼育されている羊は1万頭。オーストラリアの7000万頭、中国の1億6000万頭と比べると、雲泥の差が際立つ。
伊藤さんは見通すことができなかった。「羊はもっからない」と言いつつ「北海道の草原には羊が似合う。牧羊業を愛してやまない牧羊業者たちにも心を動かされた。『廃棄される羊毛を救い、北海道の牧羊業の助になれば』と、つてをたがってすべての工程を国内でやり遂げた。

かくして北海道ツイードは2020年1月に完成した。洗毛過程で化学薬品を使わない100%オーガニックな生地。牧草づくりから始まる全ての生産プロセスを現場で確認している。「愛着もひとしお（伊藤さん）だという。生地を顔に近づけると、そこはかとなく牧草の香りがする。

新作のツイードで織られたコートを羽織ってみた。原毛を多く投入して高密度に織り上げており、海外の有名ツイードと比べ、2割ほど重いはしたが、予想よりもはるかに軽に着心地だ。ポールドーセット種の羊毛は縮れが強く空気を多く含む。その風合いを生かすようにやさしく洗毛するなど、こだわりの試作を重ねた成果である。

いち早く生地を採用したテイラーからは「温かく深みのある風合いながらハリとコシがあり、パリッとシャープに仕上がる」との声がある。羊の頭数が少ないので生産量は限られるが「羊飼いたちが羊に注いだ愛情を感じ取っていただけならうれしい」と伊藤さんは話す。中外国産経営のテイラー「コンセプトテイラー」をはじめとし、東京都内の三越伊勢丹百貨店やブルーシアーズ（など）有名テイラーでコートやジャケットに仕立てることが可能だ。

羊の太い毛を紡いで織られた肉厚のツイードはもちがよ、海外では若い世代が祖父のツイードをリフォームして新しい感覚で着る、といった動きも出ている。北海道ツイードもまた希少にして貴重で、孫の代まで着用できるサステナビリティがある。苦境にある産業を守るという社会的責任も果たす。その意味ではまさしく今日的なラグジュアリーの先端を走るようなツイードである。

世界各地のツイードは背景の土地の物語とともに伝承され、文化的価値を帯びていった。ジャパントイードの物語は、始まったばかりである。

服飾史家 中野香織
遠藤宏撮影